

令和2年度学校評価 自己評価書

具体的目標→◎…達成, ○…ほぼ達成, ●…達成できなかった 令和2年所見→□…達成, ■…達成できなかった

対象	重点項目	具体目標	令和2年度末	
			令和2年所見	改善策(今後の取組)
総合評価	(前表に掲載)		<p>学校教育目標は、校長一人の力で実現できるものではない。全教職員の力を結集してこそ実現されるものである。そこで、本校では、学校評価を全教職員で分担して行うことにより、参画意識をもたせている。また、コミュニティ・スクール(以下CS)の取り組みを通して、地域の人材や教育力を活用する取り組みを始めた。</p> <p>今年度は、11の重点項目と16の具体目標を設定し、学校教育目標の実現に向け、全教職員が参画意識を持って組織的な取り組みを行ってきた。今年度は、中間評価を早い時期に実施し、取り組みの改善を図ることができた。その結果、16の具体目標のうち13については、ほぼ目標を達成することができた。</p> <p>学校教育目標は教員だけのものではなく、児童にとっても達成すべき目標となるものであると考え、児童版の学校教育目標として「児童の育ちのめあて」を設けている。また、基本的な授業の流れ、掃除や給食の手順をスタンダード化し、担任が代わっても児童が主体的に取り組めるようにした。その結果、授業のはじめにその時間に達成すべきゴールを設定する姿が見られるようになった。また、詩や物語の暗唱に意欲的に取り組んだり自分たちで話し合ったことをホワイトボードにまとめて発表したりするなど、主体的・対話的に学ぶ姿も見られた。さらに、全校集会で自分たちだけで並んだり避難訓練で高学年の児童が低学年の児童を並べたりするなど、学校生活において自立した姿が見られるようになった。これらは、「児童の育ちのめあて」が具現化したものであると考える。このような素敵な児童の姿がたくさん見られるようさらに取り組んでいきたい。</p> <p>自転車乗車時のヘルメットの着用については、児童の意識を高めるため校内に資料を掲示した。また、個別懇談で保護者に働きかけた。その結果、所持率及び着用率ともに大きく改善した。ネット・ゲームの使用時間についても、定期的に生活アンケート</p>	<p>・様々な問題に組織として取り組めるよう。</p> <p>職員会議や支援委員会で、取り組みの目的や内容について、全職員の共通理解が図れる時間を確保する。</p> <p>・中間評価を目標ごとに行い、取り組みを振り返りさらによりよく改善する。</p> <p>・若い教員が多いため、日常的に職員間の情報交換などを行い、指導力の向上を図る。</p> <p>・板書やノートの書き方及び清掃や給食の配膳のスタンダードを使って、全校で統一した指導を行うことで、児童が見通しをもって主体的に学習したり生活したりすることができるようにする。</p> <p>・あいさつや清掃については、児童会の取り組みにより改善が見られる。さらに、指導に当たっては子弟同行を基本とし、具体的な姿で教えるようにする。</p> <p>・ヘルメットの着用やネット・ゲーム対策については、保護者との連携・協力が不可欠である。学校だよりなどのお便りで呼びかけたり、資料を配布したりして、保護者の意識を高めていく。また、PTA総会や学年部会などで呼びかけていく。さらに、生活アンケートの結果をもとに、個別懇談で児童の実態を伝え、連携して指導を行う。</p> <p>・CSの取り組みをさらに充実させ、地域の人材や教育力を活用した教育活動を実施する。</p>
		社会を生き抜く(生)	○目標をもって学校生活を送り、振り返りにより自己の成長や新たな目標に気づく子供の育成。	<p>□学校評価の児童アンケート「あなたは、目標をもって学校生活を送っているか」という問に、『そう思う』と回答した児童は58.8%であった。『ややそう思う』の33.0%を含めると91.8%に達している。本校の児童は目標をもって学校生活を送っていると言える。</p> <p>■職員アンケートの「つなげる日記では、4つのポイントをもとに振り返らせることができています」という問に、『あまりそう思わない』と回答した職員は昨年度より5%減り45%であったが、依然として改善の余地がある。</p>

<p>社会を生き抜く(生)</p>	<p>1</p>	<p>自立の基礎を培う</p>	<p>●基本的な生活習慣を身に付けた子供の育成。</p> <p>○自分の命を守ることができる子供の育成。</p> <p>◎みんなのために働くことのできる子供の育成。</p>	<p>■2学期末の保護者へのインターネット及びゲームの時間調査では、休日に2時間以上している児童は25%、平日に1時間以上している児童は30%であり、いずれも目標を達成することはできなかった。一方で、まったくしない児童が平日で30%、休日で22%いる。二極化が進んでいることが分かる。</p> <p>□児童へのアンケート調査の結果、ヘルメットの所有率は53%から70%に、着用率も35%から56%に改善し、目標を達成することができた。また、保険の加入率も66%を達成している。学校HPやお便りと呼び掛けた成果だと思う。しかし、学年が上がるにつれ、所有していても着用しない児童の割合が高い傾向が目立つ。</p> <p>□学校評価の児童アンケート「校内をきれいにしよう」と取り組んでいるか」の問に対し、肯定的な回答は97.3%となった。また、「そう思わない」と回答した児童は1.1%から0.3%に減った。目標の98%には届かなかったが、学級での普段の指導や児童会の取組のSTS(S:静かに, T:丁寧に, S:隅々まで)が浸透していたことが分かる。</p> <p>□学校評価の児童アンケート「クラスのために当番活動や係活動に取り組むことができたか」の問に対し、肯定的な回答は96.5%となった。目標の95%を超えることができた。学級指導の結果、子供たちに自分たちの活動として意識され、目標設定ができていたようだ。</p> <p>□学校評価の児童アンケート「委員会活動は、充実した活動になっていると思うか。」という問に対し、肯定的な回答は98.9%となった。目標の95%を超えることができた。昨年度と比べ、4.7%も上がっている。また、1学期の評価の中でも低評価の子供</p>	<p>◆家庭訪問や個別懇談、学年懇談会等において、「ゲームとスマホの田舎小の基本ルール」の説明を行い、保護者の意識の向上を図る。特に、低学年の児童と保護者に重点を置き、インターネットやゲームのやりすぎによる弊害について理解させる。</p> <p>◆5年生でインターネットの正しい使い方についての親子で学習する機会をもつ。</p> <p>◆定期的の実態調査を行い、その結果をもとに固定化している児童に対しては、個別懇談などを利用して家庭における取り組みを促す。</p> <p>◆定期的の実態調査を行い、児童と保護者の意識と関心を高める。また、その結果に基づき継続的に指導を行う。低学年からの指導や取り組みを重点的に行う。</p> <p>◆関係機関と協力し、3年生で自転車の安全教室を実施する。</p> <p>◆児童会とともに取り組む。年度当初の職員会議で掃除のやり方を確認する。さらに清掃について学級会で話し合ったり道徳の勤労・公共の価値項目で清掃について取り上げたりする</p> <p>◆当番活動と係活動の違いを確認し、指導に当たる。学級目標との関連を意識した児童の活動が行われるようにする。</p> <p>◆担当を中心に児童会活動や委員会活動の目的や学校教育目標とのつながりを確認し指導に当たる。児童が1年間の目標や活動内容を話し合い、主体的に取り組めるようにする。また、定期的に活動を振り返り、意欲が保た</p>
<p>確かな学力(生)</p>	<p>2</p>	<p>聞いて考え、語り合う子を育てる</p>	<p>○話している人を見て、考えながら最後まで聞くことができる子供育成。</p> <p>◎聞いて考えたことを語り合い、学びを広げたり深めたりすることができる子供の育成。</p>	<p>■2学期終了時点で「あゆみ」の評価が「◎○」の児童は、89.2%であった。目標の100%には及ばないが、昨年度より1.5%ほど改善した。その原因としては、授業において聞き方についてのめあての確認や振り返りを1年を通して行ってきた結果だと思う。</p> <p>□学校評価の児童アンケート「授業中、友達の話を聞いて自分の考えをよりよくすることができているか」の問に対し、肯定的な回答は92.7%であった。目標の90%は達成された。その原因としては、子供にとって必要感のある話し合いが行われたことが考えられる。</p>	<p>◆子どもの発言がにつながる授業を心掛ける。また、「よい聞き方カード」を使って、「話している人を見ていたか」「最後まで聞いたか」「考えながら聞いたか」などを授業の中で振り返らせ、継続的に指導する。</p> <p>◆児童が考えをもつ時間を保障する。ホワイトボードを活用し、ポイントを絞って説明できるようにする。</p> <p>◆授業中、グループを3人組で編成し、司会者を置いて話し合う。少人数により話したり聞いたりする機会を保障するとともに、司会を経験させることで注意深く聞く態度を育てる。</p>

3	<p>読む子を育てる</p>	<p>●本が好きな子供の育成。</p> <p>○音読したり暗唱したりすることを楽しむ子供の育成。</p>	<p>■うちどくカレンダーに月の半分以上○が付く児童の目標を60%に設定した。読書週間前後の月の達成率は全校平均が50%を超え、昨年より10%以上も上回る月が多くあった。全体の3割のクラスが毎月ほぼ60%に近い達成率で、読書が習慣化してきている。これは、長年根気強く取組続けてきた成果だと思う。クラス間の達成率のばらつきと読書週間以外の月との差が課題である。高達成率だったクラスでは、身近な大人が関わりもっていることが分かった。家庭の読書への関心向上の取り組みを継続し、全校の達成率60%を目指したい。</p> <p>□音読カードや暗唱カードを活用し、名詩名文や物語などの暗唱に積極的に取り組んだ。好きな詩や物語の一節を暗唱できる児童を各学級85%以上にするという目標は、すべての学級で達成することができた。昨年度作成した暗唱カードを全校で共有し、すべての学年で暗唱カードをもとにした取り組みが、成果につながったと考えられる。コロナによる休校期間中にも各家庭で暗唱カードに取り組んだ。児童一人ひとりのペースで取り組むこともできたことよかったのではないだろうか。一方、学校評価の児童アンケートによる「暗唱カードに進んで取り組みましたか」という問いに、肯定的な回答は73.4%であった。暗唱できる名詩名文や物語は増えてきているが、自ら積極的に取り組む児童の育成はこ</p>	<p>◆「ミニミニ読書週間」「私の好きな名詩・名句紹介」「図書委員によるお昼のお話CD」を実施する。「うちどくカレンダー集計表」などをもとに分析し、学級毎の対策を考え実施する。家庭の読書関心向上の為、うちどくコメントの図書だよりへの掲載、親子読書保護者からのおすすめ本掲載、うちどくパーフェクト賞児童を発表する。</p> <p>○児童が暗唱したくなるような名詩名文の提示や授業内容と関連させた取り組みを、さらに進めていく。年間を通して、授業での取り組みの他、暗唱係を決めて朝の会などで児童が意欲的に継続して取り組めるようにする。また、今年度は全校に発表する機会を設けることができなかったため、来年度は互いに暗唱の成果を交流する機会を設けたり、図書委員による名詩名文の紹介なども行っていきたい。</p>
4	<p>確かな学力を支える授業づくり</p>	<p>○毎時間ごとのめあての達成に向けて、自ら問いをもち、仲間とともに学び合う授業の実施。</p>	<p>■田富小の授業の進め方「田富スタンダード」が教員だけでなく児童にも定着し、授業の目標や学習課題、まとめを児童が作る姿が見られるようになってきた。学校評価の児童アンケート「勉強する力が伸びたなあ」という問いに対し、肯定的な回答は低学年は90%、高学年は85%、全校では88.2%であった。低学年は目標の90%を達成することができたが、全体で見ると、目標にはわずかに及ばなかった。高学年になるにつれ、学習内容も難しくなり、学習につまづく児童も増えるためと考えられる。</p>	<p>◆各種学力検査の結果を分析し、落ち込みが見られる学習内容について共通理解をもち、校内研究の提案授業や一人一実践で取り組む。また、1学期中に学力向上委員会を行い、情報を共有し、TTを活用して個に応じた指導を行う。</p> <p>◆年度当初の職員会議で田富スタンダードについて共通理解をもち、全学級における全授業で徹底して実施できるようにする。まとめを児童の言葉でまとめ、学習の成果を実感させる。</p> <p>◆生活経験や既習事項とのずれから生まれる児童の問いから課題を設定し、児童が自分との関わりを感じ、必要感をもって学べるようにする。</p> <p>◆授業力の向上に向け、板書記録による振り返りや相互の授業参観を行う。</p>
5	<p>自ら学ぶ子を育てる</p>	<p>○進んで家庭学習に取り組む子供の育成。</p>	<p>■2学期の家庭学習のようすアンケートで、「毎日学習している」「ほぼ毎日学習している」と回答した児童は、低学年82.3%、高学年78.4%、全校80.3%であった。目標の84%には及ばなかったが、高学年は1学期の69.4%から78.4%に伸びたこと、学校評価の児童アンケート「家庭で米地に勉強しているか」の問いに肯定的な回答をした児童が96.2%いたことから、全体的に家庭学習の習慣がついてきていると考える。</p> <p>□「やってみるじゃんノート」への取り組みについては、目標の全校平均65%以上にすると、74.3%であった。昨年度の58.7%に対して飛躍的に伸びた。各学級での担任の呼びかけや優れた「やってみるじゃんノート」を紹介した成果であると考える。コロナ休業に対する危機感が、各家庭で「学校ばかりでなく家庭でもきちんと学習していかなければならない。」という気持ちを強くしたことも一</p>	<p>◆家庭学習の時間の目安(低学年30分・中学年45分・高学年60分)を示す。引続き授業内容に繋がる宿題を出したり、自学で取り組む内容を紹介したりする。また、4月の学年総会や1学期の個別懇談で、保護者に家庭学習の大切さを説明し、協力を得ることで、児童の家庭学習に対する意欲を持続させる。支援の必要な児童には学習内容や方法を示し、まずは家庭学習を習慣化することから始める。</p> <p>◆各自で学期ごとに目標を設定して取り組ませる。低学年には、「○学期までに○冊終わる」というように具体的な目標から始める。見本となるやってみるじゃんノートをコピーして学級に掲示したり印刷して紹介することも継続していく。</p>

豊かな心 (信) (命)	6	心の居場所と支え合う学校生活	<p>○安心して楽しい学校生活を送り、気持ちよく活動できる学校作りと支援体制の確立。</p> <p>□学校評価の児童アンケート「学校が楽しいか」の問に対し、否定的な回答は4%だった。5%未満にするという目標は達成された。生徒指導において、児童の気持ちに寄り添った指導や保護者へのきめ細かい連絡の成果だと考える。</p> <p>■学校評価の児童アンケート「何かあったとき、先生方に話しているか」の問に対し、肯定的な回答は83.5%だった。目標の90%には届かなかった。コロナ対策で給食を黙って食べるなど、ソーシャルディスタンスが心理的な距離にも影響しているのかもしれない。しかし、QUテストでは、全体的に学級満足群の属する児童の割合が高く、子供たちにとって学校が安心して楽しく生活できる場となっていると思われる。</p>	<p>◆来年も学期に1回「生活アンケート」を実施し、いじめの早期発見・対応に努める。</p> <p>◆年間2回のQUの結果を学年で分析し、ルールと信頼関係に基づく学級づくりに努める。</p> <p>◆職員会議や校内委員会で情報を共有し、全校体制で指導に当たる。</p> <p>◆互いに認め合い、自己肯定感を高める取り組みを各学級で実施する。担任は児童の行動を価値付け、全体に広げる。</p> <p>◆言葉で気持ちを伝えたり助けを求めたりできるようにする。相手を傷付けるような言動は見逃さず、その場で指導する。また、学級活動や道徳の授業、校外学習における事前指導、会</p>
	7	地域とつながるあいさつの活動	<p>○学校・家庭・地域で、あいさつができる子供の育成。</p> <p>□学校評価項目の保護者アンケート「あなたのお子さんは、あいさつがよくできていると思うか。」という問に対し、否定的な回答は全体の12.7%だった。昨年度の16.2%に比べ改善が見られ、目標の14%以下を達成することができた。新型コロナウイルス感染対策として、大人数で行うあいさつ当番を実施することができなかったが、月別生活目標であいさつに重点を置いたり、「あいさつビンゴ」を行ったりするなど、児童会を中心に学校生活の様々な場面で継続して指導をしてきたことの成果だと考えられる。</p>	<p>◆来年度も児童会を中心に、児童が主体的にあいさつができる取り組みを考え、継続していく。</p> <p>◆CSの取り組みと関連させ、自分たちを支えてくれている地域の方の存在を自覚させる。旗振り当番をしてくれる保護者の方や見守り隊の方、近所の方など、具体的に対象をしぼり、高学年が率先して意識を広げていく。</p> <p>◆一番身近な大人である教職員が率先して児童や来校者に対して挨拶を行い、見本となる。</p>
	8	共生の教育	<p>○多様な他者を知り、尊重し、折り合いをつけながら目標に向かって共に学び共に活動できる子供の育成。</p> <p>□学校評価の児童アンケート「誰とでも仲良く協力して活動しているか」の問に対し、肯定的な回答をした児童は、低学年94.2%、高学年94.0%とだった。目標の90%を達成した。毎年恒例のフレンドシップ集会在コロナのため実施できず残念だった。フレンドシップ委員会が外国のあいさつカードを配付した。下校時に「さようなら」の代わりに「チャオ」「ラーコン」などと声をかる児童の姿が見られた。職員間で共通理解をもち、各学級で取り組んだ成果といえる。</p>	<p>◆来年度もフレンドシップ委員会を中心に、相互理解を深めるために外国の言葉、文化、自然などに親しみがもてるような活動に取り組む。あいさつカード取り組みをさらに充実させる。</p> <p>◆職員会議や支援委員会において、全職員で児童についての共通理解を図り、指導・支援にあたっていく。また、いろいろな児童が活躍できる機会や場を各学級や委員会活動、行事等で意図的に設けていく。</p>
健やかな体 (命)	9	体力向上	<p>●自ら運動に親しみ、体力の向上に努める子供の育成。</p> <p>■5月の50m走では、全国平均を上回っていた児童は全体の35%であった。1月の50m走では、全国平均を上回った児童の割合は、1年生(84%)、2年生(79%)、3年生(60%)、4年生(61%)、5年生(76%)、6年生(75%)となった。全校平均72.5%となり、当初の目標であった65%以上をクリアすることができた。この結果から、授業で走る時間を増やすことや、休み時間に外で遊ぶ際のルールや声掛け等を行った成果であると考え。目標を達成することはできたが、体育委員会主催の走り方教室や運動週間などの取り組みができなかった課題が残る。</p>	<p>◆コロナ禍においても実施できる内容を工夫し、走り方教室や運動週間の実施に計画的に取り組む。</p> <p>◆体育委員会を中心に、休み時間に外遊びを呼びかける。</p> <p>◆引き続き授業の中で走る時間を確保する。</p>
	10	食育の推進	<p>○食に対する関心をもち、健康な体作りに努める子供の育成。</p> <p>■食に関するアンケートで「嫌いなものでも食べるように努力している」と回答した児童は、88%であった。6月の86%かは改善したが、目標の90%には及ばなかった。一方、残菜調べにおいては、一人当たりの残菜が8月の45.1gから10月には33gと大幅に改善した。食育を教育活動全体を通して実践し、年間を通して指導した成果であると思う。</p>	<p>◆献立紹介、お話し給食、手作り弁当の日などを通して食に対する関心を高める。</p> <p>◆残菜調べを定期的に行い、その結果を活用して児童が栄養バランスと健康、生産者の思いや食料資源の有効活用等について考える機会をもつ。</p>

<p>信頼される学校(信)</p>	<p>11</p>	<p>積極的な情報発信と連携</p>	<p>○保護者や地域に対する積極的な情報発信の実施。</p>	<p>□学校評価の保護者アンケートの「学校は適切な連絡や情報提供を行っているか」の問に対し、肯定的な回答は96.4%だった。中間報告と同様に、コロナウィルスの影響もあり、養護教諭を始め、各教員が児童の体調の確認や連絡を綿密にとったことや、日ごろから些細な事であっても子どもが帰宅する前に保護者に連絡するというのを、心がけて行ってきた成果であると思う。          ■「学校の情報を得るためにHPを閲覧したか」の問に、肯定的な回答は68.2%だった。昨年度と比較しブログの閲覧数は確実に増加しているが、評価としては否定的な回答も多くなった。年度初めから次第にブログの更新率が下がっていく傾向が見られた。年度を通じて定期的に更新することが課題である。</p>	<p>◆来年度も学校だよりや各クラスの学級通信等を定期的に作成し配布する。          ◆日常的に児童の安全確保や健康管理について、緊急メールや電話により迅速かつ適切な情報の提供を行う。          ◆各種届の様式や学習コンテンツなど保護者や児童が必要とする内容の充実に努める。          ◆各学年のブログの更新について、担当が定期的に確認する。</p>
-------------------	-----------	--------------------	--------------------------------	--	---